

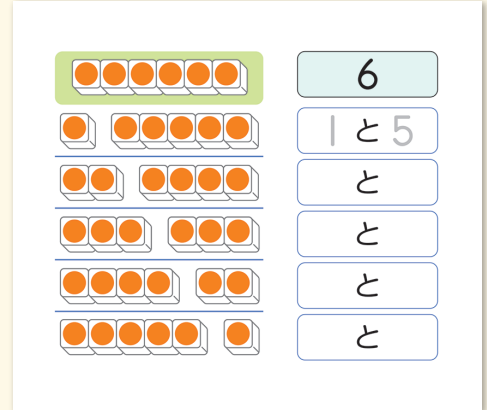
合成と分解

数の合成・分解

6という数について、右のように見ることができます。

6という数を1と5を合わせた数と見るような場合を**合成**といいます。また、逆に6を1と5に分けて見るような場合を**分解**といいます。

加法・減法の計算は、このような見方がもとになっています。10までの数で繰り上がりや繰り下がりのない計算は、合成・分解を式の形に表したものとイえます。また、繰り上がりや繰り下がりのある計算では、計算の過程で何度か合成・分解を行っていることとなります。



例えば、 $8+3$ では、

- ① 10をつくるのに、8と2で10になる
- ② 3を2と1に分ける
- ③ 8と2で10
- ④ 10と1で11

したがって、10までの数の合成・分解は、計算の基礎的な能力として十分習熟しておくことが大切です。指導にあたっては、遊びの要素を取り入れ、楽しく学習する中で練習させたいものです。

0の導入

0という存在を知らせることもここでの大切な目的です。0は何もないことを表す数であると同時に、位取り記数法において不可欠なものです。したがって、10をこえる数を学習する以前に0を学んでおく必要があります。

しかし、児童の混乱を避けるために、10までの数の合成・分解を考える際には、0を含めたものは扱いません。

数を数える場面の自然な延長として、何もない場面をとらえさせ、その場面を表すにはどうすればよいかという課題意識をもたせることが大切です。

